

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ

日付：2016年6月30日

報告書名：平成28年 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

平成28年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

2016年6月30日

事業名	帰還準備促進のためのコミュニティ図書館サービス事業（第3期） Community library service project for promoting a return preparation (The third year)	
事業対象地	タイ国境 9ヶ所の難民キャンプ	
事業期間	事業期間：2015年4月1日～2016年3月31日	
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム	
総支出・返還金	総支出 40,644,586円（返還額：2,825,962円）	
プロジェクト目標および、その達成度	「コミュニティ図書館サービスにおいて、難民の本国帰還を想定した将来の選択に必要な情報に主体的にアクセスできる仕組みを強化、促進する」ことを目的に、本事業を実施した。 事業第1期、第2期に続き、タイ側難民キャンプに住む各世代の将来的な帰還に関わるニーズを考慮しながら、第3期では、難民キャンプ内住民の情報や学習機会へのアクセスを促進することに焦点を当てて事業を実施した。事業第3期では、住民へ提供できる情報の充実、学校への移動図書館サービスの拡充、さらに研修を受けた教育・図書館関係者による住民への主体的な働きかけの結果、事業第2期以上に、図書館の情報提供や図書を通じた学習機会の提供の機能が、難民キャンプ内住民や教員、学生に理解され、活用されるようになったことが成果として挙げられる。	
実施内容 概要	1. 7ヶ所の難民キャンプ、21館のコミュニティ図書館を中心に、難民の本国帰還を想定した将来の選択に必要な情報が提供される。 <活動> 1-1. 本国に関する図書の購入・配架 1-2. PCによるデジタル情報検索サービスの実施 1-3. 他のステークホルダーと協働した「コミュニティ情報掲示板」の更新	裨益者： ・18歳以上の図書館利用者：延べ155,675人 ・PC利用者：延べ4,707人
	2. 9ヶ所の難民キャンプにおいて、難民の情報収集、活用能力を高めるために図書を利用した学習機会が提供される。 <活動> 2-1. 絵本の購入・配架 2-2. 参考図書の購入・配布 2-3. 学校教育機関に対する移動図書館の貸出と活用 2-4. 読書推進公演と年中行事の開催 2-5. カレン語の絵本、カレン語教科書・教師用ガイド(3	裨益者： ・18歳以下の図書館利用者：延べ274,407人 ・移動図書館利用学校：最大100校（147校中）

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ

日付：2016年6月30日

報告書名：平成28年 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

	<p>年生用)の印刷・配布</p> <p>3. 9ヶ所の難民キャンプにおいて、情報や学習機会を広げるための人材育成を実施する。</p> <p><活動></p> <p>3-1. 図書館関係者向けの情報管理研修の実施(年1回、7難民キャンプ)</p> <p>3-2. 図書館担当、図書館員向け図書館サービス研修の実施(年1回、7難民キャンプ)</p> <p>3-3. 図書館青年ボランティア向けの読書推進・情報伝達研修の実施(年1回、7難民キャンプ)</p> <p>3-4. カレン系難民キャンプにおける教員トレーナー、教員向けの図書情報活用研修の実施(年1回、7難民キャンプ)</p> <p>3-5. カレニー系難民キャンプにおける教員トレーナー、教員向けの図書情報活用研修の実施(年1回、2難民キャンプ)</p> <p>3-6. 図書館モニタリングを含む計画会議、四半期会議、年次会議の実施</p>	<p>裨益者：</p> <ul style="list-style-type: none">・研修参加者：828人(図書館委員会、教員、図書館青年ボランティア、図書館担当、図書館員など)・会議参加者：918人
<p>成果</p>	<p><コンポーネント1></p> <p><u>難民キャンプ内の住民が図書やPC、コミュニティ情報掲示板を通して、事業第2期以上に、本国に関する様々な情報を得られるようになった。</u></p> <p>図書の購入については、2015年当初からミャンマー国内からの購入を開始した結果、種類豊富な図書を安価で購入できるようになり、計画以上の図書の種類、冊数をコミュニティ図書館に提供できた。2015年後半には、ミャンマー国内で全土停戦合意や総選挙などがあったため、難民キャンプ住民の国内政治に対する関心が高く、ミャンマー国内に関わる最新の情報を新聞や雑誌を通してタイムリーに提供できた点は非常に良かった。PCからの情報提供については、事業第2期と比較して利用者延べ人数が1,000人以上増えたが、1年間のPC利用者数値は目標値の73%に留まった。その要には、情報元となるUNHCRのオフラインポータルが不具合のため更新されない時期があったことと、情報共有センターの体制変更に伴い、情報共有センターからの情報提供が一時的に止まっていたこと、ウイルス対策ソフトの更新や電気の供給を安定させるためのジェネレーター等設置工事を行ったことにより、キャンプでPCが利用できなかった期間があったためである。UNHCRのオフラインポータルの不具合、情報共有センターの体制変更は負の外部要因ではあるが、2016年2月にUNHCR、KRC、CCSDPTと当会が難民キャンプでの情報共有の強化に向けた話し合いを行い、コミュニティ図書館も継続して難民キャンプ内の住民に情報を拡散する機能を担うことを確認した。難民キャンプ内での情報共有において、コミュニティ</p>	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ

日付：2016年6月30日

報告書名：平成28年 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

図書館は、引き続き重要な役割を担うことになった。PC設置の副次的な効果として、難民キャンプの青年世代がタイピングの練習や学習用デジタル教材の利用でPCを積極的に利用するようになったことが挙げられる。情報掲示板については、事業第3期も UNHCR が更新する Media Report、情報共有センターの発行するニュース、写真の入った新着図書情報、読書推進情報などを毎月貼り付けることにより、より多くの住民が掲示板の内容を確認できるようになり、アンケート調査結果でも掲示板の役割とその成果は確認され、情報掲示板の内容を確認してコミュニティ図書館に関心を持つようになった、写真が入った情報は、文字が読めない人々や子どもたちにとっても有益だという声が聞かれた。

<コンポーネント2>

第2期と比較して移動図書箱を利用する学校が10%以上増加し、より多くの学校で授業や教員の指導準備、学生の自主学習等に図書が利用され、難民キャンプで図書を利用した学習機会が広がった。

図書館から近い学校については、移動図書箱サービスを利用してはいないが、教員や学生が頻繁に図書館を訪れ、学習参考書を利用している。事業第3期では、カレン語、ビルマ語の翻訳シールを貼り付けたタイ絵本10タイトル、カレン語の出版絵本1タイトルを図書館に配架し、多くの保育所・小学校でこれらの絵本が利用された。特に保育所の教員からは、保育所のカリキュラムにあった絵本が入手できて、授業に役立っているという声が上がった。また、3年生用のカレン語教科書と教員用ガイドを印刷し、KRCEEに配布したが、これらの教材は次年度の新学期から使用される計画にある。中・高等学校、ポスト高等学校向けの学習参考書については、事業第3期も、教育部会や学校のリクエストをもとに、各科目の学習参考書や辞書、英語の物語本をミャンマー国内、及びバンコクから購入し、図書館に配架後、移動図書箱活動に利用された。中・高等学校、ポスト高等学校の移動図書箱サービスの最大利用率は、事業第1期では30%に満たなかったが、事業第2期では約40%、事業第3期では63%まで向上しており、教員や学生が学習参考書を利用しながら授業や自主学習を行う機会が確実に増えていることを確認できた。副次的な効果として、上記の学校以外にも、障がい児の通う特別学校や少数民族の子どもたちが通う私学校、NGOやCBOの事務所にも移動図書箱活動が拡大し、難民キャンプの様々な社会施設で図書が利用された。さらに、図書館青年ボランティアによる読書推進イベントを通して、図書館から遠い地域に住む子どもたちや少数民族の子どもたちにも読書の機会を提供し、さらに図書館活動の内容やミャンマー本国に関わる情報を紹介することができた。

<コンポーネント3>

研修に参加した教育・図書館関係者は図書館サービスや読書推進、情報提供に関する

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ

日付：2016年6月30日

報告書名：平成28年 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

知識や技術が向上し、コミュニティ図書館の持つ機能や具体的な活動について事業第2期以上に住民に説明できるようになった。学校教員についても、研修を通して移動図書館活動や学校での図書の利用方法についての理解が深まり、多くの学校で移動図書館が利用されることに繋がった。

第1期、第2期でも課題となっていた研修を受けた図書館関係職員が第三国定住や転職を理由に離職するケースは第3期事業期間中にも続いたが、OCEEに所属する図書館担当職員が新しく採用された図書館員にプレサービス研修を実施し、図書館担当職員のサポートのもと図書館員同士のスキル交換会を定期的で開催するなどのフォローアップ体制が構築されており、事業全体への大きな負のインパクトにはならなかった。副次的な効果としては、図書館活動に関わる様々な知識と技術を習得した図書館担当職員や図書館員は、他NGOの難民キャンプ内職員から読書推進研修を実施する依頼を受けるようになり、図書館員自ら研修を企画し実施できるようになった。また、図書館青年ボランティアの中には、研修や読書推進公演やイベントの企画・実施を通して、コミュニティのためのボランティア活動そのものにやりがいを感じる者も増え、コミュニティ図書館での図書貸し出しの補助や図書館内の定期的な大規模清掃をサポートするなど、積極的に日常の図書館活動にも関わるようになった。